

# 認知症解明 弘大も参画

## 全国初 高齢者1万人調査

### 弘前市内2千人の健診担う

国が認知症の要因や予防法などを探るため、全国の高齢者1万人を対象に実施する追跡調査に、弘前大学が参画することが3日、分かった。弘大は弘前市内で65歳以上の2千人を対象に調査する。こうした大規模調査は全国で初めて。本年度は調査項目を協議し、2016年度から同市を含む全国8カ所で調査をスタートする。

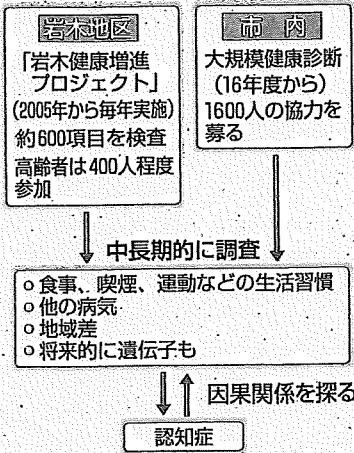
(佐藤彩乃)

### 予防法開発に期待

厚生労働省によると現 域差の有無などを調査する 在、全国の高齢者のうち認 予定。将来的には遺伝子解 知症の人が7人に1人だ 析も行う見通し。研究開発 が、25年には5人に1人に の代表者は九州大学大学院 の清原裕教授。

増え、700万人前後にな ると推計されている。 弘前市を担当するのは弘 同研究は国の認知症研究 大大学院医学研究科社会医 開発事業の一環で、16年度 学講座(中路重之教授)。 以降の研究助成費は年間数 同講座は岩木地区で11年継 億円規模の見込み。食事、 続している健康調査「岩木 喫煙、運動などの生活習慣 健康増進プロジェクト」の まとめ役で、認知症検査を 含む約600項目の詳細な 健康診断を行っている。受 診者約1,200人のうち、 高齢者は400人程度で、 引き続き健診を実施する。

#### 弘前市2千人追跡調査イメージ



同講座は16、17年度、追跡調査対象者の2千人から400人を差し引いた1600人程度の協力を新たに募る。1600人に関しては同プロジェクトとは別の調査機会を年1回設ける予

定で、認知症以外の疾患も含めた幅広い健診を行う。追跡調査は18年度から始める方針。中路教授は「最低でも10年は続けたい。認知症に限らず、高齢者の健康の維持増進につなげていきたい」と話した。

弘前市以外の調査地域と研究機関は、福岡県久山町(九州大)、岩手県矢巾町(岩手医科大)、石川県中島町(金沢大)、長野県佐久地域(慶応義塾大)、島根県海士町(鳥取大)、愛媛県中山町(愛媛大)、熊本県荒尾市(熊本大)。

事業を担当する国立研究開発法人日本医療研究開発機構の担当者は「認知症の病態解明は不十分であり、根本的治療薬や予防法は十分確立されていない。本研究が病態の解明や認知症の早期発見、診断法の確立に寄与し、根本的治療薬や効果的な症状改善法、有効な」とコメントした。

予防法の開発につながる「い」もの期待している」とコメントした。